

I - A - 7

初生雛のイソフルレン継続麻酔により 生じた肝障害に対する小柴胡湯の影響

¹藤田保健衛生大学東洋医学診療センター, ²同大学薬理学, ³中京女子大学, ⁴長谷川医院
○¹長谷川有, 黒田俊久, 尾上公一, 松浦正司, ²長谷川勢子, ³長谷川和, ⁴長谷川恒子

【方法】演者等は先にセボフルレンを用い初生雛の肝に及ぼす障害について、ハローセン及びエンフルレンと比較検討を行い、肝に及ぼす障害が軽度であり、小柴胡湯エキスを投与によってその回復の有効性の有ることを報告してきた。この度孵化8日目の名古屋コーチン純系種を用い、初生雛に対し1日4時間(1回1時間1日4回)計96時間のイソフルレン1.0, 2.0%V/O₂Vのもとでの継続麻酔を行った。

【結果】継続麻酔によって生ずる成育阻害及び血清LDH及びGOT, GPT, γ -GTP値の変化から先に明らかにしてきたハローセン, エンフルレンに比べるとその及ぼす影響の小さいことを見出し得た。成育阻害は1%V/O₂V処理においては処理14日目以降に、2%V/O₂Vにおいては処理11日目以降に認められ、処理24日目の成育阻害率はそれぞれ、10.2%, 15.8%であり、血清GOT, GPT, γ -GTP値においても、対照雛の283, 7, 27, に対し、1%処理雛に於いては329, 6, 24、2%処理雛に於いては438, 7, 25が計測され、GOT値の増加が認められた。血清LDH組成についても、対照雛の1:2:3:4:5=76.8:11.4:4.6:2.6:2.1に対し麻酔処理雛においては1%V処理では66.3、2%では49.8とLDH1の占める組成率の低下が見られ、嫌気性移行及びGOT値の変動はハローセンにおける結果より推定し肝に及ぼす障害によるものとする。此等処理雛に体重100gに対して0.1gのツムラ小柴胡湯エキスを経口投与し、成育阻害の回復、血清LDH組成変動、主としてGOT値の変動から其の回復への有効性を見出し、走査電顕像から、処理雛に於いても肝細胞におけるディッセ腔内面に微絨毛の見られることは、先に報告したセボフルレンの場合と同じような結果であり、対照雛との間に著しい変化は見出されなかった。

肝動脈枝内面における影響についても検討を加え其の結果について併せて報告する。